



おうにん らん 応仁の乱は、なぜ起こったの



守護大名家の後つぎをめぐる争いが、対立していた二大実力者の間の戦いに発展したんだよ。

当事の武士の家では、惣領（一家を治める長）が、男の子がないままで死ぬと、親類の男の子を、その家に入れて、後つぎにしていました。そのため、親類の間で、だれを後つぎにするかで争いが起こることが、たびたびありました。

しばし はたけやまし 斯波氏と畠山氏で、後つぎをめぐる争いが起こった

守護大名の家でも、後つぎをめぐる争いが起こりました。斯波氏では、義敏と義廉が対立し、義敏は細川勝元に、義廉は山名宗全に頼りました。細川勝元も山名宗全も、幕府の実力者で、おたがいに対立していたのです。畠山氏でも、政長と義就が争い、政長は細川勝元に、義就は山名宗全に頼りました。

しょうぐんけ 将軍家でも、後つぎの問題が起こった

八代将軍の足利義政は、男の子がなかったので、1464年に、弟義視を後つぎにし、細川勝元を義視の後ろだてにしました。ところが翌年、夫人の日野富子に、義尚が生まれました。富子は、義尚を後つぎにしようと、山名宗全を義尚の後ろだてにしました。

はんげき 山名宗全がしかけ、細川勝元が反撃した

1467（応仁1）年1月、畠山政長が、山名宗全のたくらみによって、管領をやめさせられたうえ、やしきを義就にわたすよう、命令されました。おこった政長軍は、京都の街中で、義就軍と戦いましたが、山名軍が義就軍を助けたために、敗れました。おくれをとった細川勝元は、斯波義敏らと相談して、5月26日の朝早くから軍を動かし、幕府を占領しました（東軍）。これが、応仁の乱の始まりです。翌年には、義視が山名側（西軍）に加わりました。